

第4回陸側遮水壁タスクフォース議事概要

日時:平成25年11月15日(金)15:30~17:30

場所:経済産業省 本館17階 東5 第4共用会議室

出席者:大西主査、藤田委員、丸井委員、鎌田委員、赤川委員、東京電力、鹿島建設、新川 原子力発電所事故収束対応室長

議事概要:

1. 鹿島建設より、前回までの指摘事項の検討状況について説明【資料1】。

<前回までの指摘事項の検討状況についての主なコメント>

- ・【資料1】の中で計画反映となっているものについては、どのようにして確認すればよいか。(大西主査)
- ・計画反映の具体的な内容については次回のタスクフォースでお示しする。(鹿島建設)

2. 東京電力より、基本設計方針について説明【資料2】【資料3】

<基本設計についての主なコメント>

- ・細粒砂岩・粗粒砂岩層と互層の水質は、雨水の水質に近く、降雨と地下水位のレスポンスが良い。凍土壁の目的が地下水の流動をブロックであれば、凍結管の根入れ深度は、すべての帯水層の流動を遮水する観点から、細粒砂岩・粗粒砂岩層までのほうがよい。(丸井委員)
- ・降雨の影響については、敷地内のフェーシングによって抑制できると考えている。(東京電力)
- ・細粒砂岩・粗粒砂岩層の地下水位は敷地外への降雨に対してレスポンスするため、敷地内だけのフェーシングでは対応できない。(丸井委員)
- ・互層と細粒砂岩・粗粒砂岩層の間の泥岩層は南北方向で窪んだ形状になっている。また場所によって層厚が異なるため、確実に泥岩層に根入れできるのか(丸井委員)
- ・東西方向の地下水流動のみではなく、南北方向も含め、3次元的な地下水流動を考慮した上で議論すべきである。(藤田委員)
- ・試験等をしてみないとわからないが、中粒砂岩層のような地層においては、凍土融解後に透水性が変わるということはないと考える。3号機、4号機建屋のように、建

屋の基礎が互層まで及んでおり、そこを通じてアウトリークする可能性の方がよりシリアスな問題である。(赤川委員)

- ・地下水挙動については汚染水処理対策委員会のサブワーキンググループで行っている議論と重なる部分がある。根入れ深度の議論を含め、同グループでも議論を行ったらどうか。(藤田委員)
- ・FS事業では、細粒砂岩・粗粒砂岩層までを対象とした実証試験を行うこととし、本体事業の根入れ深度が互層下位の泥岩層でも細粒砂岩・粗粒砂岩層下位の泥岩層となってもいいようにすべき。(大西主査)

以上